\すすめ！NPO/
NPO活動レポート vol.5

中国地方各県から、積極的に活動するNPO団体をピックアップしているこのコーナー。今回は、鳥取市郊外の田園地帯に拠点を置いて活動する「鳥の劇場」を紹介します。

劇場を、地域と世界をつなぐ場に

鳥取市郊外、城下町の町並みが残る鹿野町で、廃校をリノベーションした劇場を運営するNPO法人「鳥の劇場」。演劇を通して地域や海外とも交流しながら幅広い芸術活動を展開する同劇場の主宰で、代表理事・演出家でもある中島諒人さんに伺いました。

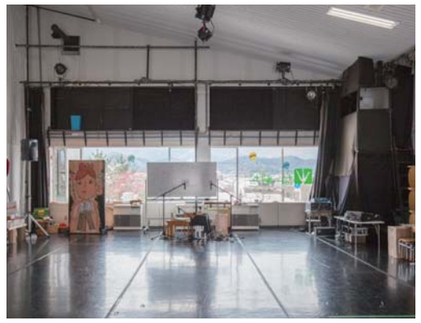
鳥取県　特定非営利活動法人 **鳥の劇場**

人が集まって一つの作品を観ながら社会について考える劇場は、今の時代を見つめる“公共の場”になる

劇団というと大都市にあるイメージですが、「鳥の劇場」の拠点は地方都市。中島さんの出身地という縁もある鳥取で、劇場に使える場を探し、出会ったのが廃校になった鹿野町の小学校と幼稚園でした。東京で演劇をしていた中島さんが地方に活動の場を移したのは、「社会を見つめる場を作れる演劇は、自律的な発展というテーマを抱えた地方都市でこそ、その役割が果たせて、価値を知ってもらえ、社会的支援ともつながっていけるのではないか」との思いからです。

旗揚げ当初は、見慣れない現代演劇の劇団に警戒の声もありましたが、鹿野町には町民ミュージカルの伝統があり、近隣への挨拶の際には行政の担当者が同行してくれるなど、さまざまな支援が大きな力になりました。また、初演の際には周辺のお宅にチケットを配り、上演後にはアフタートークで語り合う、触れ合いを大事にした上演を続けることで、次第に認知されていきました。さらに、活動の意味をもっと理解してもらうため、演劇を「創る」だけでなく「招く・いっしょにやる・試みる・考える」の5つの柱で事業を展開。主要イベント「鳥の演劇祭」では国内外の実力派の舞台を上演し、来場者でまちのにぎわいを生み出して、今では地域の人たちが力強い応援者になってくれています。

この地で活動して10年、その評価は、学校での上演やワークショップ、東京での地方定住イベントの企画運営、全国障がい者芸術文化祭の上演プロデュースなど、県内や全国規模の活動につながってきました。「今後も、地域に劇場があることでこんな発展ができたと言われるような企画・挑戦を重ねていきたいと思います」。


劇場に隣接するスタジオ（80人収容）。演劇の練習や上演、ワークショップなど、多目的に利用されている。

元幼稚園の建物を利用した劇場のエントランス。窓の外にも席が設けられ上演までの待ち時間を過ごす場所に。

特定非営利活動法人 鳥の劇場
代表理事 中島（なかしま） 諒人（まこと）さん

県外や海外とも直接交流

鳥の劇場では、交流のある国内外の演劇人と直接つながり、団体の招聘や海外公演を行うなど、活動は全国・世界に広がっています。日本・中国・韓国の3か国持ち回りで開催する「BeSeTo演劇祭」にも参加。日本が主催国となる2016年は鳥取での開催を準備中です。

鳥の劇場のプログラム 5つの柱

創る

現代演劇や子ども向け作品など、鳥の劇場による演劇の創作・上演。なぜ演劇が長い歴史を持ち、多くの人に愛されてきたのかを知ってもらえるような、楽しみながらも考えさせられる作品づくりに力を入れています。近年の主な作品は「白雪姫」「天使バビロンに来たる」「兵士の物語」など。作品は県外や海外でも上演し、また海外の劇団との共同制作も行っています。

◀絵本を基に作られた作品「すてきな三にんぐみ」の小道具

招く

鳥の劇場を、演劇だけでなくダンスや音楽など演劇以外の分野も含めて、コンテンポラリー（現代的）な芸術に触れられる場にしたいとの思いから、国内、海外を問わず芸術団体を招いています。2015年の鳥の演劇祭には、韓国、フランス、ニューカレドニア、ニュージーランド、フィンランド、インドネシア、イスラエルなどから参加。サーカスやダンス、人形劇なども上演されました。

いっしょにやる

学校（小・中・高・大）などに出かけて一緒に芝居を創ったり、アーティストを招いて芸術体験をするなど、体を使ったコミュニケーションを体験するワークショップ。小学5年生から中学3年生を対象に、台本の読み解きから演技や舞台美術の作成、宣伝チラシ作り、上演までを一緒に行う「小鳥の学校」も開催しています。

▲子どもたちと作る「小鳥の学校」劇中のシーン

▶障がいのある人と作る「じゆう劇場」の小道具。（『ロミオとジュリエット』から生まれたもの』から）

試みる

さまざまな現代のアート表現を知る、鑑賞するためのプログラム。社会派映画の上映会や、地元・鳥取大学の現代音楽作曲家の作品を歌唱・演劇などを織り交ぜて紹介する演奏会、芸術に関するシンポジウムなど、劇場、演劇という枠にとらわれないことを事業としてプロデュースする、地域のアートセンターとしての活動です。

考える

2015年は戦後70年という節目で戦争のことを考えるため、終戦直後に書かれた戯曲をリーディング形式で上演。安全保障関連法案が話題になる中で、研究者を招いて憲法についてのトークイベントを行ったり、2014年は原発について考えるために映画を上映したりと、今日的なテーマを取り上げ、世の中の物事を落ち着いて考える場を提供するプログラムも実施しています。

演劇祭で地域の盛り上がりづくり

毎年9月に開催する「鳥の演劇祭」では、期間中約3,000人が観劇に訪れます。上演会場を回るために町内を多くの人が行き交うため、城下町の町並みを地元の方のガイドで歩く散策企画なども実施しています。2012年からまちづくり協議会との協働で開催している地域の空き家や軒先を使う「週末だけのまちのみせ」も含むと、昨年の来場者数は約14,000人に。出店にも25の店舗に57件、城下町でのパフォーマンスに2件の応募があり、相乗効果で地域の盛り上がりを創出しています。

2016年の主なイベント

- **●劇場リニューアルこけら落とし公演**　7月開催（予定）
  改修・再オープンした劇場での初上演。
- **●鳥の演劇祭9（2016）**　11月19日（土）～27日（日）の週末
  町内の複数の会場で、国内外の多数の作品を上演。
- **●第23回BeSeTo演劇祭**　鳥取開催 9月16日（金）～10月10日（月・祝）
  日・中・韓の演劇交流祭。鳥取を含む3会場で開催。

取材協力／
特定非営利活動法人 鳥の劇場
鳥取市鹿野町鹿野1812-1
☎（0857）84-3268
ホームページ：
http://www.birdtheatre.org/